

No.165

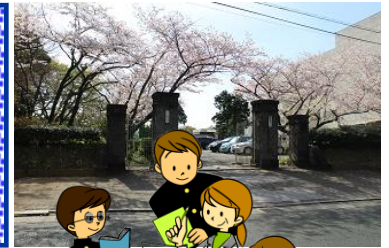
令和2年5月29日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

# Rising Sun



## 「正常性バイアス」って何だ？

クラスター オーバーシュート ロックダウン  
ソーシャルディスタンス PCR検査 COVID-19

半年前ならば頭の中は？がいっぱいになったはずで  
す。新型コロナウイルス感染症がニュースや情報番組、  
ネット上を独占するようになって以来、毎日のように  
見聞きしてきた言葉ですので、今では小学校中学年以  
上ならば、瞬時に意味を理解できるはずで

では、「正常性バイアス」という言葉を聞いたこと  
があるでしょうか。東日本大震災が発災したとき、専  
門家の方々が、私たち国民に向けたメッセージの中で、  
時々取り上げられた言葉です。

Wikipedia では、以下のように解説されています。

正常性バイアス (Normalcy bias) とは、認知バイ  
アスの一種。社会心理学、災害心理学などで使用されて  
いる心理学用語で、自分にとって都合の悪い情報を無視  
したり、過小評価したりしてしまう人の特性のこと。

自然災害や火事、事故、事件などといった自分にとって  
何らかの被害が予想される状況下にあっても、それを正常  
な日常生活の延長線上のできごととして捉えてしまい、都  
合のわるい情報を無視したり、「自分は大丈夫」「今回は  
大丈夫」「まだ大小部」などと過小評価したりするなどで、  
逃げ遅れの原因となる。「正常化の偏見」「恒常性バイ  
アス」とも言う。

具体的な例として、東日本大震災が起きたとき、  
「警報が出ているのを知りながら避難しない」人た  
ちがいたことが指摘されている。正常性バイアスによ  
る根拠のない楽観的思考が対応を遅らせた可能性  
が指摘されている。

58人が死亡した御嶽山の噴火では、死者の多くが噴  
火後も河口付近にとどまり噴火の様子を写真撮影して  
いたことがわかっている。携帯電話を手に持ったままの死体  
や、噴火から4分後に撮影された記録が残るカメラもあ  
った。彼らが正常性バイアスの影響下であり、「自分は大  
丈夫」と思っていた可能性が指摘されている。

今回の新型コロナウイルス感染症下での私たちはど  
うでしょうか。

生徒たちの登下校の様子を見ていると、完全に正常  
性バイアスがはたらいているように思ってしまう場面  
に出くわします。あれだけ口酸っぱく「3密を避ける」  
「ソーシャルディスタンスを確保する」と言われてい  
るにもかかわらず、複数名が密接して登校してくる姿  
を多く見かけます。学年、男女は関係ありません。な  
かには、手をつないでいる女子生徒もいました。

毎日報告される感染者は減ってきているとはいえ、  
ゼロになったわけではありませんし、新型コロナウイ  
ルスはなくなったわけではないのです。専門家は、「必  
ず第2波、第3波は襲ってくる」と警鐘を鳴らしてい  
ます。北海道や韓国の現状を見れば、私たちの住む愛  
知県も決して例外ではないことがわかるはずで

す。しばらく感染者が確認されていなかった北九州市では、  
ここ数日複数名の感染者が確認されており、「第2波  
か？」と危惧されています。

「学校再開に向けた準備期間」とそれに続く「分散登  
校」が今週で終わり、来週からは本格的な授業が始ま  
ります。教育活動を進めていくなかで、思わぬところ  
で思わぬ「3密」ができないとも限りません。生徒た  
ちには、災害時や緊急時には正常性バイアスがはたら  
き「自分は大丈夫」と思いがちなこと、緊急事態  
宣言が解除されいろいろな規制が緩和されつつあるが  
感染リスクはゼロではないこと、誰が感染してもおか  
しくない状況はここしばらく(おそらく1年以上)は続くで  
あろうことを丁寧に指導するようお願いいたします。

6月が訪れ、感染症対策と並行して熱中症対策も考  
えていかなくはなりません。全員がマスクをしている  
ため、例年以上に神経を尖らせる必要があります。  
学習部長の長坂先生から連絡があったように、授業中  
であっても水分補給の時間を保障するなど、熱中症対  
策にも腐心するようお願いいたします。